

## 県立美術館の検討状況について

平成 30 年 1 月 16 日  
博 物 館

## 1 第 2 回鳥取県立美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会の開催

- (1) 日 時 平成 29 年 1 月 2 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで  
 (2) 場 所 鳥取県庁県議会棟 特別会議室  
 (3) 出席者 鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会委員

氏 名	役 職 等	分野	出欠
林田 英樹	日本工芸会理事長、元文化庁長官、元国立科学博物館長、元国立新美術館長	全般	出席
水沢 勉	神奈川県立近代美術館館長、県立博物館美術品収集評価委員	美術	出席
加藤 哲英	鳥取県美術家協会会長	文化活動	出席
池本 喜己	写真家	文化活動	出席
五島 朋子	鳥取大学地域学部教授 (附属芸術文化センター)	文化活動	欠席
稲庭 彩和子	東京都美術館アート・コミュニケーション係長 学芸員	教育普及	欠席
塚田 美紀	世田谷美術館学芸部企画担当主査 学芸員	教育普及	欠席
高増 佳子	米子工業高等専門学校、准教授	建築関係	出席
吉村 寿博	吉村寿博建築設計事務所代表	建築関係	出席

- ・中島教育委員長をはじめ全教育委員も出席

- (4) 議 題 美術館に求められる機能と特色について など  
 (5) 主な意見等

## 【『未来を「つくる」美術館』というコンセプトや運営等について】

- ・「つくる」というコンセプトは良いので、さらに今後は、「成長していく (育つ)」というメッセージを盛り込んでいくと良い。
- ・鳥取県はこれまで美術館を楽しめる機会が少なすぎた。多少コストがかかっても美術館が楽しいものと思える良い展覧会を検討してほしい。
- ・県民とともにつくるという趣旨は良い。収蔵品も県民からの寄附・寄託をいただきたいとのメッセージを積極的に盛り込んではどうか。また、県民ギャラリーの性格を持つ空間も設けるべきである。
- ・子ども達が美術館の建物の壁画を造るなど、整備自体に関われる工夫を組み込むことを意識してほしい。
- ・国内・県内の美術館のみならず、海外姉妹都市のアーティストが地元作家とコラボするプログラム等も考えてほしい。
- ・A I R は美術館での展開のみならず地域や遊休施設の活用(空き家活用の A I R)も考えてほしい。
- ・既存の大賞や展覧会等の民間も含めた事業とのコラボを行うことを丁寧にリサーチし結び付きを考えること。多様な事業主体とのコミュニケーションにより街づくりに繋がる。

## 【美術館の機能と施設について】

- ・美術館に様々な役割を持たせすぎると方向性があいまいとなることを懸念する。立地場所を踏まえると美術館に相当の個性が必要で、地域とのつながりを重視する美術館のあり方と、ハイレベルで

個性的な美術館のあり方と、2つの施設を分けるべきではないか。

- ・地域連携の重視と高いレベルの展示とは両方を目指すべきであり十分実現し得る。
- ・富山県の新美術館（今年8月開館）は2つの方向をうまく融合させ、元々建設地にあった遊び場を屋上に設け、利用客の回遊性を工夫し多目的に利用できる部分と、しっかりした展示室・収蔵庫とが建物の中で一体となる工夫がなされている。展示環境としてハイレベルの展示室があり、同時にホワイエの回遊性や諸室の共用化などの工夫によって、2つの方向性が違和感なく同居している。
- ・美術館は多様な要素を持ちながらも開かれていることがアピールポイントだ、との考え方は各アド委員の意見にも表れている。
- ・収蔵庫のセキュリティなど「絶対開かれない部分」と、利用者にやわらかく「開かれた部分」は両立すべき。両方が施設面で分断されず一体的であるべき。美術館の魅力として、柔らかく開かれているあり方が施設のデザインにも表れることを期待する。
- ・美術館をつくる夢を強く訴えること、夢を抱いてもらうためには、意図的に冒険することも肝要であり、建築・デザイン面でチャレンジしてほしい。

#### 【美術館の整備・施設運営手法等について】

- ・神奈川県立近代美術館のPFI手法導入は、制度創設初期であったため、事業方式（BOT）や事業期間（30年）等についての客観的な評価のない中で導入したもので課題も多い。PFI手法導入の検討は、運営手法やメリット・デメリット等の十分な検討が必要。
- ・PFIでの運営は、民間事業者と認識のずれが生じやすく、美術館の在り方を踏まえた評価モニタリングをしっかりとやることが重要なこと。
- ・あくまでも県立美術館であり、PFI手法を導入した場合でもPFI事業者にしっかり意見が言える形にしておくべき。
- ・特殊な事例である美術館運営に特化した運営事業者は民間には存在せず、民間事業者の知恵だけでの運営は難しく、現場は混乱もしながら難しい試行錯誤が必要となる。
- ・学芸部門においては蓄積した学芸員の調査実績が活かされていくことも明確に示す必要がある。
- ・PFI手法導入当初は、日本博物館協会なども懸念を示していたが、現在は、国地方を挙げて財政負担軽減面で当該手法を検討することが通例となりつつある。

#### 【意匠性への配慮について】

- ・PFI手法で整備する場合に、一括発注型PFI方式でも、意匠性の評価配点を高して配慮ができるとあったが、できれば、基本設計先行型PFI方式で整備し設計の自由度の高い事業とすることが望ましい。あっと思えるきらりと光る新しいものが生まれる必要がある。
- ・直営整備の金沢21世紀美術館では、市の整備担当者がしっかりとコントロールし、設計者と一緒にプロジェクトが進められた。こうしたスキームが成功する美術館の要因と思う。
- ・美術館の魅力のためにも、柔らかく開かれているあり方が施設のデザインにも表れることを期待する。（再掲）
- ・美術館をつくる夢を強く訴え、夢を抱いてもらうためにも、意図的に冒険することも肝要であり、建築・デザイン面でチャレンジしてほしい。（再掲）

## 2 地域住民との関わり

中部地区住民自らが県立美術館整備を契機に地域のまちづくりの課題を認識し、その課題解決の主体、方法、スケジュールについて協議を行う「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」を設置するなどの動きが進んでおり、こうした動きと緊密な関わりを持ちながら開館に向けての検討を進めていく。

### ○活動内容

- ・美術館に関する情報・スケジュール・課題等の共有
- ・参加団体における美術館に関係する活動へと繋げるための協力体制の構築検討
- ・会員相互美術館に関係する活動の情報共有
- ・美術館を活用した地域活性化・まちづくりを推進するために必要な活動

### ○役員等

- ・会 長：石田耕太郎鳥取中部ふるさと広域連合長
- ・副会長：計羽孝之倉吉文化団体協議会長
- ・事務局：鳥取中部ふるさと広域連合中部創生課事務局

### 《資料》

- ・「美術館に求められる機能と特色」（第2回鳥取県立美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会 資料）
- ・鳥取県立美術館整備基本計画策定の今後の進め方
- ・鳥取県立美術館のコンセプト（案）と来年度の事業展開について
- ・県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会について

# 美術館に求められる機能と特色

## 「県民立美術館」 → 未来を「つくる」美術館

～いろんな「つくる」で「とっとりのアート」の「むかし」「いま」そして「みらい」をつむぐ～

### アドバイザー委員会

- ▶ **子どもたちの育成**  
「子どもたちが美術館に触れて育ったと感じるような」  
「小・中学生は毎年来館」  
「親も子どもそれぞれが楽しめる」  
「地域の児童館との交流」
- ▶ **賑わいの創出（まち）**  
「鑑賞に限らず地元住民が来館できるスペース」  
「賑わいが求められる公的施設」  
「倉吉未来中心と行き来するよう」  
「美術館整備によって街に変化が起きる」
- ▶ **県民主体**  
「自分の、自分に近いところとして語ってもらえる」  
「来館を促すのではなく、住民に関わりを持ってもらう」  
「皆で何かをしよう・一緒につくる」  
「ユーザーの立場としての市民連携」

### 県内文化団体等

- ▶ **子どもたちの育成**  
「子どもたちが本物を見て心を動かす」  
「子どもたちが五感を通して芸術に親しめる」  
「子どもたちの作品を美術館に展示、収集保管」
- ▶ **まちづくり・地域活性化**  
「文化関係者だけでなく、あらゆる人、組織とつながった美術館」  
「美術館ができるのを機に周りを整備」  
「経済メリットが出るような連携を」
- ▶ **県民主体**  
「鳥取県にゆかりのある美術品の収蔵と展示」  
「県民みんなのものになる」といい  
「県民の参画を促すような仕組みとすべき」  
「県民のボランティアに基づくシステムの構築」

- ▶ **人をつくる**
- ▶ **まちをつくる**
- ▶ **県民がつくる**

### 基本的な在り方（基本構想）

1. 「とっとりのアート」の魅力を知り、大切に守り、誇りを持って 県内、県外そして世界へと発信するとともに、より多くの人々に内外の多彩で優れたアートに触れる機会を提供する。
2. 人々が思い思いに楽しみと夢と喜びを見出すことができ、次代を担う子どもたちが優れたアートと出会い、想像力や創造性を育む場所となる。
3. 地域に根差し県民のアイデアと愛情で運営される、「私たちの県民立美術館」となる。
4. アートによって街を目覚めさせて文化的感性の高い賑わいのある地域づくりに貢献する。
5. 鳥取県創生の拠点となるよう、大胆かつ柔軟に新たな可能性を求め、次代に向けて新たな地平を拓くことを目指す。

1

## ① 人を「つくる」（次世代の育成） ～さまざまなひととともに成長する美術館に～

### I. 「みるひと」をつくる：多くの人を訪れる美術館に

- i. **魅力的な企画展示**  
魅力的な企画展を開催し、県民をはじめ県外からも広く、来館者を呼び込みます。
- ii. **県民の誇りと未来を創出する企画展示**  
鳥取ゆかりの美術館コレクション展示や歴史風土を活かした企画展により、県民の誇りと未来を創出します。
- iii. **従来の美術館像にとらわれない賑わい機能の創出**  
先端の映像・音響設備を備え、ホワイエや展示室を活用したユニークバニエの展開による賑わいを生むイベントにより、多くの人々が美術館を訪れる機会を創出します。
- iv. **オープンな美術館**  
エントランス・ホワイエを開放的で回遊性のある空間とし、美術館にいてこと自体を楽しめる美術館を創造します。

### II. 「つくるひと」をつくる：「つくるひと」をプロデュース

- i. **創作者の息遣いを感じられる美術館**  
創作現場を体感でき、創作者も刺激を受けられるアーティストインレジデンス機能を持った美術館を創出します。
- ii. **子どもたちや県民の美術創作の支援**  
学校絵画コンクールや県展など、様々な公募コンクールを連携開催し、優秀作のアーカイブ展示等の展開を行います。
- iii. **県民と一体となった展示のとりくみ**  
県展の開催や高校生キュレーターによる企画展覧会の開催など、美術創作者の創作展示の場となる美術館を創出します。
- iv. **共生社会をめざした障がい者アートの支援**  
障がい者による美術創作活動や展示等を支援します。

### III. 「みらいの才能」をつくる：未来人材教育プログラム

- i. **子どもたちに身近な美術館**  
美術ラーニングセンター機能を活かし、美術を通じた学校教育支援プログラムの創出や学校へのアウトリーチ授業等の展開を図ります。
- ii. **つくる・みる・まなぶ、美術との多様な関係を感じられる美術館に**  
多様なワークショッププログラムを展開し、誰もが美術と接することができる様々な機会を創出します。
- iii. **世代や地域を超えた、「とっとりの美術」をまなび・つくる環境を**  
様々な世代に美術に接する機会を提供し、美術を通じたコミュニケーションの文化づくりを創造します。

### IV. 「居場所」をつくる：時間を過ごすことが楽しめる

- i. **サードプレイスを標榜する美術館**  
美術鑑賞のみならず、気楽に訪れ思い思いに過ごせる憩いの美術館を創造します。
- ii. **多機能な美術館**  
ユニークバニエとして様々なイベントに活用できる機能設備・ソフトの整備や、ミュージアムショップやカフェレストラン等の展開により、多機能で魅力的な美術館を創造します。
- iii. **幅広い芸術表現との連携**  
演劇や音楽、ダンス、伝統芸能などのパフォーミングアーツとの連携を図り、総合芸術の表現の場となる美術館を創造します。

2

## ② まちを「つくる」 ～まちや地域とつながり、まちとともに成長する美術館に～

### I. 周辺施設とまちをつくる

- i. 倉吉パークスクエアと一体となったイベントの開催**  
倉吉パークスクエアエリア全体で一体となったイベントプログラム等を開催し、賑わいを連携して創出します。
- ii. 大御堂廃寺跡と連携したのびやかで広がりのある美術館**  
大御堂廃寺跡の広々とした空間と連携し、史跡の保存・活用に配慮しながら、多くの人を呼び込める空間を創出します。
- iii. 倉吉市立図書館との連携**  
隣接の倉吉市立図書館と連携して、美術館図書閲覧機能やアートスタートなどの図書活用サービスの充実を図ります。

### II. 地域とまちをつくる

- i. 白壁土蔵群等との連携**  
白壁土蔵群や古民家活用のアーティストインレジデンス、旧明倫小学校円形校舎等との連携により街中での鑑賞機会を充実します。
- ii. 本県ゆかりの作家にまつわる大賞との連携**  
本県ゆかりの作家にまつわる大賞企画と連携し、展示・関連企画の充実を図ります。
- iii. 屋外展示等における連携**  
地域の屋外彫刻との連携や二ホンリスオープンページの展示機能への活用など美術館の屋外展示の充実を図ります。
- iv. サブカルチャー資源の活用**  
「まんが王国とっとり」を標榜する本県のサブカルチャー資源を活かした展覧会等の開催を行います。

### III. 他館とまちをつくる

- i. 県内の美術館と連携した広域的展開**  
鳥取県ミュージアムネットワーク（TMN）の美術館連携の充実を図り、各館コレクションを活用した企画展やアーカイブ情報の充実、学芸員連携などにより、広域的に美術に親しむ環境の創造を目指します。
- ii. 美術館の相互交流**  
県内美術館の相互利用割引などの利用促進プログラムづくりを進めます。
- iii. 県外美術館との交流**  
魅力ある県外の美術館との作品の相互貸出や巡回展を実施し、地域を超えた美術散歩ができるプログラムの充実を図ります。

3

## ③ 県民が「つくる」 ～県民の手による県民が身近に感じられる美術館を～

### I. 県民が誇れる美術館

- i. みんなが集まるかっこいい美術館**  
みんなが集まりたくて誇りの持てるかっこいい美術館を創造します。
- ii. みんなが楽しめるオープンな美術館**  
県民みんなが楽しめて交流が深まり、美術館にいたいことを楽しめる美術館を創造します。

### II. 県民が参加できる美術館づくり

- i. 県民による美術館づくりへの参加**  
美術館づくりに県民自らが参加するワークショップ等を行うなど、美術館づくりに県民参加の仕組みを導入します。
- ii. つくるプロセスをオープンに**  
これまでのオープンな美術館づくりを継続し、今後の設計から完成までの過程をHPやワークショップなどを通じてオープンにしています。
- iii. 県民がよびやすい親しみを持てる美術館**  
親しみやすく呼びやすい美術館として愛称の募集をします。

### iii. 県民とともに作りあげていく美術館

- i. 県民が気軽に訪れ、気軽に楽しめる美術館**  
いつでも気軽に美術に触れることのできる運営プログラムを実施します。
- ii. 県民が支え育てる美術館**  
県民ボランティア組織や美術館友の会（鳥美スト）をつくり、積極的に運営を担ってもらい、ともに美術館をつくる仲間を増やします。
- iii. ワークショップ作品の展示活用**  
誰でも参加できるワークショップの作品を展示活用します。

### iv. 展示・収蔵品とともに成長していく美術館 ～施設完成がはじまり～

- i. 収蔵品を増やし成長する美術館**  
鳥取県の美術館を「つくる」ことに貢献する作品を積極的にあつめます。
- ii. 収蔵品とともに研究を深める美術館**  
調査研究を深め鳥取ならではの美術の価値創造を進めます。
- iii. 展示や活動とともにいつもつくり出している美術館**  
多目的に使えるスペースを設け、使いやすく、いつでも何かをやっている美術館を目指します。

## 鳥取県立美術館整備基本計画策定の今後の進め方

時期	検討事項等	基本計画策定アドバイザー委員会等
29年8月 ～	○基本計画策定のための課題整理	○第1回アドバイザー委員会 (8/4)
	○建設地の基礎調査 ○美術館の導入機能、施設計画、事業計画、事業費の素案等の検討	○県内文化・観光団体等との意見交換会 ○委員への個別ヒアリング
11月	○民間事業者への参入意向調査 ○PFI手法の検討(事業方式、形態、期間、業務範囲、リスク分担)	○第2回アドバイザー委員会 (11/22)
30年 1月	<u>○基本計画(素案)のまとめ</u>	○第3回総合教育会議(1/16) ○第3回アドバイザー委員会 ・基本計画案を提示して議論 (1/下旬～2月上旬を想定)
2月	○PFI手法導入可能の評価	○県民フォーラムの開催 (2月6日)
3月頃	<u>○臨時教育委員会(3月下旬)</u> ・基本計画策定  	○第4回アドバイザー委員会 ・2月議会の状況等を踏まえた計画案を提示して議論
30年 4月以降	<u>○県有施設・資産有効活用戦略会議</u>	
(以下は、PFI手法を導入した場合の想定)		
30年6月頃	PFI事業者選定アドバイザー業務委託経費予算要求	
30～31年度	○PFI事業者の募集・決定	
31～32年度	○PFI事業者による基本設計・実施設計	
33～35年度	○PFI事業者による建設工事(乾燥期間を含む)	
36年度	○開館(予定)	

# 鳥取県立美術館のコンセプト（案）と来年度の事業展開について

平成 30 年 1 月 16 日  
博 物 館

## 1 美術館の目的・コンセプト（案）

・人を「つくる」  
・まちを「つくる」  
・県民が「つくる」

### 未来を「つくる」美術館

～いろんな「つくる」で「とっとりのアート」の「むかし」「いま」そして「みらい」をつむぐ～

#### (1) 人を「つくる」

- ① 「みるひと」をつくる：多くの人を訪れる美術館に  
・魅力的な企画展示 ・県民の誇りと未来を創出する企画展示 ・従来の美術館像にとらわれない 賑わい機能の創出 ・オープンな美術館
- ② 「つくるひと」をつくる：「つくるひと」をプロデュース  
・創作者の息遣いを感じられる美術館 ・子どもたちや県民の美術創作の支援 ・県民と一体となった展示のとりくみ ・共生社会をめざした障がい者アートの支援
- ③ 「みらいの才能」をつくる：未来人材教育プログラム  
・子どもたちに身近な美術館 ・つくる・みる・まなぶ、美術との多様な関係を感じられる美術館に ・世代や地域を超えた、「とっとりの美術」をまなび・つくる環境を
- ④ 「居場所」をつくる：時間を過ごすことが楽しめる  
・サードプレイスを標榜する美術館 ・多機能な美術館 ・幅広い芸術表現との連携

#### (2) まちを「つくる」

- ① 周辺施設とまちをつくる  
・倉吉パークスクエアと一体となったイベントの開催 ・大御堂廃寺跡と連携したのびやかで広がりのある美術館 ・倉吉市立図書館との連携
- ② 地域とまちをつくる  
・白壁土蔵群等との連携 ・本県ゆかりの作家にまつわる大賞との連携 ・屋外展示等における連携 ・サブカルチャー資源の活用
- ③ 他館とまちをつくる  
・県内の美術館と連携した広域的展開 ・美術館の相互交流 ・県外美術館との交流

#### (3) 県民が「つくる」

- ① 県民が誇れる美術館  
・みんなが集まるかっこいい美術館 ・みんなが楽しめるオープンな美術館
- ② 県民が参加できる美術館づくり  
・県民による美術館づくりへの参加 ・つくるプロセスをオープンに ・県民がよびやすい親しみを持てる美術館
- ③ 県民とともに作りあげていく美術館  
・県民が気軽に訪れ、気軽に楽しめる美術館 ・県民が支え育てる美術館 ・ワークショップ作品の展示活用
- ④ 展示・収蔵品とともに成長していく美術館  
・収蔵品を増やし成長する美術館 ・収蔵品とともに研究を深める美術館 ・展示や活動とともにいつもつくり出している美術館



## 県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会について

### 1 設立目的

協議会では、地域の活性化・まちづくりの観点より、美術館を活用した各主体の活動のきっかけとするため、美術館に関する情報・スケジュール・課題の共有化を行い、参加する各主体が自らの活動へと繋げるよう促すことを目的とする。

参加する各主体では、関係する団体へ情報等を横展開し、連携により課題を解決するための活動を推進するよう努める。

### 2 会員

分野種別	名称
行政	鳥取中部ふるさと広域連合、中部総合事務所、倉吉市、三朝町、北栄町、湯梨浜町、琴浦町
経済・商業	鳥取県経済同友会中部地区、倉吉商工会議所、湯梨浜町商工会、三朝町商工会、北栄町商工会、琴浦町商工会、倉吉異業種交流プラザ
文化	倉吉文化団体協議会、湯梨浜町文化団体協議会、三朝町文化団体連絡協議会、北栄町文化団体協議会、東伯文化協会、赤崎文化協会、百花堂委員会
住民・地域	倉吉自治公民館連合会、湯梨浜町自治公民館連合会、小鹿地域協議会、三徳山地域協議会、みささ村地域協議会、高勢地域協議会、賀茂地域協議会、竹田地域協議会、北栄町自治会長会、琴浦町区長会
学校	倉吉市小学校 PTA 連合会、倉吉市中学校・養護学校 PTA 連合会、東伯郡 PTA 連合会（小学校、中学校）、中部地区高等学校 PTA 連合会
社会福祉	倉吉市老人クラブ連合会、湯梨浜町高齢者クラブ連合会（泊支部、羽合支部、東郷支部）、三朝町老人クラブ連合会、北栄町老人クラブ連合会、琴浦町老人クラブ連合会、倉吉市ボランティアセンター
子ども	NPO 法人こども未来ネットワーク
大学	学校法人藤田学院（鳥取看護大学、鳥取短期大学、附属こども園）
観光	鳥取中部観光推進機構、倉吉観光マイス協会、三朝温泉観光協会、湯梨浜町観光協会、北栄町観光協会、琴浦町観光協会
まちづくり	NPO 法人サカズキネット、NPO 法人未来、琴浦まちづくりネットワーク、倉吉ロータリークラブ、倉吉東ロータリークラブ、倉吉中央ロータリークラブ、倉吉ライオンズクラブ、倉吉打吹ライオンズクラブ、倉吉グレートライオンズクラブ、倉吉北ライオンズクラブ

※鳥取県教育委員会教育長、鳥取県立博物館はオブザーバーとして参加

### 3 活動内容

- ・美術館に関する情報・スケジュール・課題等の共有
- ・参加団体における美術館に関係する活動へと繋げるための協力体制の構築検討
- ・会員相互美術館に関係する活動の情報共有
- ・美術館を活用した地域活性化・まちづくりを推進するために必要な活動

(分野別課題)

分野	内容
周辺環境	・歴史公園等の利用方法
	・市民が気軽に立ち寄れるような憩い施設（子どもの芝広場、読書とかなできる癒し空間、待合せ、おしゃべりのできる広場）
	・未来中心との導線
	・彫刻プロムナードの移転
	・魅力的で特徴的な建物周辺の植え込み
交通・アクセス	・定期路線バスとシャトルバス（倉吉駅～美術館）の運行

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内板、看板等、細やかな標示</li> <li>・北条バイパス、羽合バイパスからのアクセス改善</li> <li>・幹線道路（山陰道、179号線、313号線等）の整備</li> <li>・鳥取コナン空港・米子鬼太郎空港からのアクセス便</li> </ul>
観光（周遊） 経済・飲食等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内観光地、中部地区観光地との周遊の仕組みづくり</li> <li>・地域の商業施設との連携（グルメ、ショッピング）</li> <li>・周辺でのイベントの開催</li> <li>・徒歩散策回遊ルートの設定（歩道案内板、休憩施設）</li> <li>・観光地巡回バスの運行</li> <li>・飲食店等の整備充実</li> </ul>
応援団	・サポーター制度、ボランティア制度の創設・運営。募集、実施内容、参加
周辺博物館	・サテライト機能、機能・展示住み分け
協議会	・意見交換の場、協議会の早期立ち上げ、活動開始

- 4 役員 会長：石田耕太郎鳥取中部ふるさと広域連合長  
副会長：計羽孝之倉吉文化団体協議会長  
（事務局）鳥取中部ふるさと広域連合

5 今後の協議会の進め方

H29. 12. 26	第1回協議会
～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野別別に<u>部会設置</u></li> <li>・部会毎に<u>取組み方法素案やスケジュール素案を作成</u></li> </ul>
H30. 7月頃	第2回協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題への取組み方法・スケジュール素案、協議</li> <li>～部会における取組み方法素案のブラッシュアップ～</li> </ul>
H31. 1月頃	第3回協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題への取組み方法・スケジュール方針の決定</li> <li>～実施、働きかけ（H31. 4月目処）～</li> </ul>
H31 年度以降	第4回以降 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みの進捗状況、見直し協議</li> </ul>